

本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校及び 森孝中学校の統合について(案)

本地丘小学校、森孝東小学校、森孝西小学校がともに小規模校であり、今後も小規模が継続していく見込みから学校を統合して、望ましい学級規模にしていく案をこれまでもお伝えしてきました。森孝中学校の場所が小学校3校のちょうど中心付近に位置していることや、小中学校が同じ敷地内で教育活動を進めることのメリットを考え、小中併設型の学校を開校したいと考えています。これまでのヒアリングの中で、敷地面積や統合後の地域活動等について心配の声をうかがっているところではありますが、心配が解消されるように丁寧に説明をしていこうと考えています。統合校を開校することを契機に、教育・学校運営面・施設面それぞれにおいて教育環境の向上を図ってまいります。今回、統合を行った場合の概要を具体的にまとめさせていただきました。ご一読いただきまして、ご意見・ご要望等いただければと思います。なお、あくまで仮のものであり、正式に統合が決定しているわけではありませんので、あらかじめご承知おきください。

新しい学校のイメージ図

統合されると校舎はどうなるの？ ※西区なごや小学校の様子

なごや小学校は、平成27年に幅下小学校・那古野小学校・江西小学校が統合し、開校しました。新校舎が完成するまでは、西校舎(旧江西小校舎)と東校舎(旧那古野小校舎)に分かれて教育活動を行いました。そして、平成29年に新校舎が完成しました。このような統合校の事例を参考にしつつ、より充実した教育活動を行える校舎の建設を行っていきます。



可動式の扉を開放することにより、従来の教室の1.5倍の広さを確保しています。自然の風と太陽光が取り入れられる設計になっています。



きれいで明るいトイレになっています。センサーライトで自動点灯します。多機能トイレも併設しています。



全体に木目を基調とした、優しい木のぬくもりが感じられるデザインになっています。全館LED照明を設置していて、明るく広々とした空間を演出しています。



従来の図書室より広がっています。読書スペースがゆったりと確保されていたり、寝転びながら本が読めるような畳スペースが整備されていたりします。

令和5年11月
名古屋市教育委員会
教育環境整備課

1 学校規模の考え方

01 「小規模校」ってどのような学校なの？

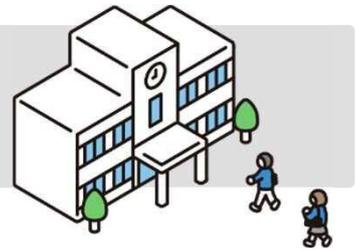
	11 12	24 25	30	31(学級数)
小学校	小規模	望ましい規模	大規模	過大規模
中学校	小規模	望ましい規模	大規模	過大規模
	5 6	8 9	18 19	24 25
			30	31(学級数)

- 小学校では12から24学級、中学校では6から24学級を「望ましい学校規模」と考えています。
- 小学校ではクラス替えのできない学年が生じる11学級以下、中学校では5学級以下の学校を「小規模校」と考えています。



02 「小規模校」を「望ましい規模」の学校にする方法は？

- 小規模校への取り組みは、「通学区域の変更」または「学校統合」により進めます。
- 「学校統合」は、隣接する学校で、同じ行政区、中学校ブロック内の組み合わせを原則とします。
- 敷地条件等で特に有効な場合は、小・中学校の併設も検討します。
- 「通学距離」は徒歩を基本とし、小学校概ね2km、中学校概ね3kmを目安とします。



03 統合に伴うメリット・デメリットについて

小規模校の「よさ」は？

みんなが主役

児童の数が少ないから、多くの行事で「活躍の場」が多いです。いわば「みんなが主役」になれます。

きめ細やかな見守り

学校の職員が子どもたちのことをよく理解していて、きめ細かく見守ることができます。

盛んな異学年交流

縦割り活動が盛んに行われます。「先輩へのあこがれ」「小さい子への優しさ・思いやり」が育まれます。

余裕のある学校施設

学級数が少ないので、特別教室や体育館、運動場などを比較的使いたいときに使うことができます。

小規模校の「課題」は？

～子どもの数や学級数が少ないことで困ることは？～

様々な考えと出会えない

今の教室での学びは、周りの友達と様々な考えを出し合って、その中から自分の考えを導き出すことが大切とされています。子どもの数が少ないことで多様な考えに出会えるチャンスが少なくなってしまう心配があります。

決まった子の考えに引っ張られがちになる

授業の中で、人数が少ないことで、いつも決まった子どもばかりが発言し、周りの子どもが、その子に任せておこうという気持ちになりがちになり、発言に対して消極的になる心配があります。

人間関係の固定化

クラス替えができないと、子ども同士や保護者同士でトラブルがあった場合に、子どもが嫌な気持ちを抱いていたまま、我慢をさせている可能性があります。男女比の偏りが生じやすく、これまでに学年に男子が一人ということもありました。

新しい気持ちになりにくい

クラス替えができれば、毎年、「新しいメンバーで新しい担任のもと」で、新たな気持ちで「頑張ろう」という気持ちをもちやすくなります。学年1クラスで、いつも同じメンバーだと、学年が変わったとしても、新しい気持ちを持ちにくくなります。

行事の教育効果が下がる

適正な学級数が保たれない小規模校の行事では、様々な場面で教育効果が下がることが心配されます。人数が多いからその教育効果があります。運動会や作品展でも、たくさん的人数がいるからこそそのよさがあります。人数が少ないと、中津川野外学習のキャンプファイヤーの場面ではどうしても寂しい感じがしてしまいます。

集団での学習で制約が生じる

体育の時間のサッカーやベースボール型の運動などチームで取り組むものは、チーム編成ができないので、簡易的なルールに変更されてしまいます。ドッジボールを学級で行おうとしても、それぞれのチームの人数が少なくなってしまうし、学年1クラスなので学級対抗のドッジボールもできません。

限られた大人とのふれあいになる

たくさんの大人(教職員)が子どもとふれあって、多くの目で子ども一人一人の良さを見取ることが大切です。学級数が少なければ、教職員の人数が少なくなり、限られた大人とのふれあいとなってしまいます。子どもの気持ちとしても、たくさんの先生と関わりたいと思うので、多くの大人と関われる環境は、子どもたちにとって大切だと思います。

習熟度別指導や専科指導などが困難

適正規模の学校であれば、算数などの学習で、「発展コース」「基礎基本コース」等といった習熟度別の指導を行うことができます。また、教員には専門分野や得意分野があり、特に高学年では、専科指導の体制を取ることができます。この取り組みは「中1ギャップ」による問題行動の予防にもなります。

小中併設型の学校の「よさ」は？ ～笹島小中学校での様子をもとに～

小学校で中学校の先生の授業が受けられる

中学校の教員が小学生の授業を受けもつことができ、専門的な知識や技能を学ぶことができます。笹島小学校では、中学校の先生が国語、音楽、英語、家庭科、(社会)の授業を担当しています。

小中学校の合同行事

笹島小中学校では、小学生と中学生と一緒に活動する合同行事が盛んに行われています。例えば、体育祭では小中学生がペア競技。文化祭では小中互いの合唱・合奏を聴きあう活動。環境学習では5種類の花を共に育てています。

より広い異学年交流

小中一貫校では、中学生が小学生を手伝ったり、優しく声を掛けたりする姿が見られます。一方で下の学年の子どもは、運動や芸術活動など交流活動を通して、より上の学年へのおこがれをもつことができます。

小中学校の教職員のスムーズな連携

小中学校の職員室が同じところにあることもあり、小学校の職員と中学校の職員とが日常的に情報交換ができるので、「中1ギャップ」による問題行動を防ぐことができます。

2 統合の方向性について

01 どうして統合を行う必要があるの？

本地丘小学校、森孝東小学校及び森孝西小学校はいずれの学校も小規模校であり、今後も小規模校が継続する見込みであることから、統合を行う学校として選定しています。

下の表からも分かるように令和11年度には、すべての小学校で1学年1クラスになる見込みです。

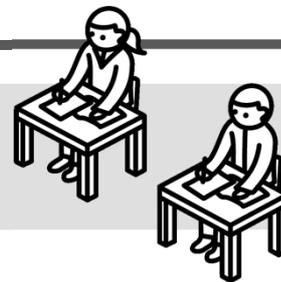


02 各学校の児童数・生徒数はどのようになっているの？

	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
本地丘小	65人 6学級	60人 6学級	50人 6学級	39人 6学級	34人 6学級	26人 6学級	22人 6学級
森孝東小	142人 6学級	135人 6学級	126人 6学級	131人 6学級	129人 6学級	131人 6学級	127人 6学級
森孝西小	208人 10学級	209人 10学級	202人 9学級	185人 8学級	165人 7学級	161人 7学級	144人 6学級
森孝中	246人 8学級	236人 7学級	216人 7学級	206人 6学級	204人 6学級	187人 6学級	180人 6学級

03 統合したら、どの場所に通学することになりそうなの？

森孝中学校の場所で、本地丘小学校、森孝東小学校及び森孝西小学校を統合し、森孝中学校と併設とします（小中併設型の学校の設置）。選定理由としては、森孝中学校の場所が森孝中学校ブロックのほぼ中心に位置しており、通学距離が概ね2km以内となるためです。



04 登下校の安全は大丈夫なの？

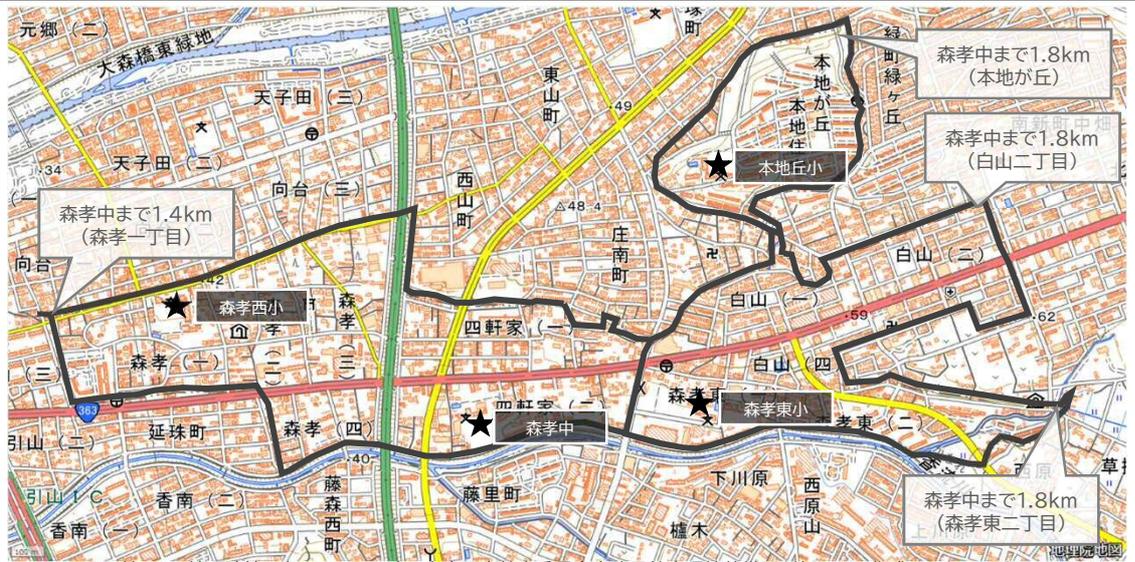
統合の決定後、統合校の開校に向けて、安全点検や地域・交通状況などの特性を踏まえて新しい通学路を設定するとともに、必要な安全対策について関係行政機関と連携を図り、通学の安全確保に取り組みます。

(取り組みの例)

歩行者用信号機やガードレールなどの安全施設設置、注意標識設置、交通指導員配置、通学練習会実施、安全な登校のための見守り活動などの調整

05 通学距離は遠くないの？

3つの小学校の
通学区域のうち
森孝中学校までの
距離が最も遠い
地域でも、
名古屋市の基準の
通学距離である
2km以内に
なっています。



※この地図は、地理院地図(GSI Maps)を名古屋市教育委員会事務局教育環境整備課が加工して作成したものです。

3 今後のスケジュールについて(想定)

これまでの統合の事例(ほのか小学校、笹島小学校(笹島中学校との併設)、なごや小学校)を踏まえ、想定するスケジュールです。統合が最もスムーズに進んだ場合を想定したスケジュールになっていますので、調整の状況によって変わってきます。

	令和元年度末～令和5年度	令和6～8年度	令和9～11年度	令和12年度～
本地丘小学校の場所	本地丘小学校		新しい学校・東校舎 ※本地丘小と森孝東小を統合し、どちらかの場所で東校舎を開校	新校舎へ引越し
森孝東小学校の場所	森孝東小学校		森孝中の移転 ※先行統合で空いた学校を利用して森孝中学校の教育活動を行う。	
森孝西小学校の場所	森孝西小学校		新しい学校 西校舎	
森孝中学校の場所	森孝中学校		新校舎の建設	
	保護者・地域への説明・協議を行う。	教育委員会が統合を決定する。 先行統合校及び統合校の開校に向けた学校づくりの協議(校名・校章などの検討、通学安全の検討など) 児童相互の交流活動 統合校の新築工事の設計	本地丘小と森孝東小を新しい学校の東校舎として統合し、本地丘小又は森孝東小の場所で開校する。 森孝西小学校は新しい学校の西校舎として開校する。 先行統合によって空く場所に森孝中を移転する。 森孝中の場所で統合校(小中一貫校)の新築工事を行う。 統合校の開校に向けた学校づくりの協議(校名・校章などの検討、通学安全の検討など) 児童相互の交流活動	新築工事の完了とともに森孝中が現在の場所に再移転する。 先行統合校と森孝西小を統合し、現在の森孝中の場所で開校する。 小中併設型の学校として開校。
	令和元年度末～令和5年度	令和6～8年度	令和9～11年度	令和12年度～

あくまでも
スムーズに進んだ場合を
想定していますので、
このスケジュールより遅れる
ことはあります。

